

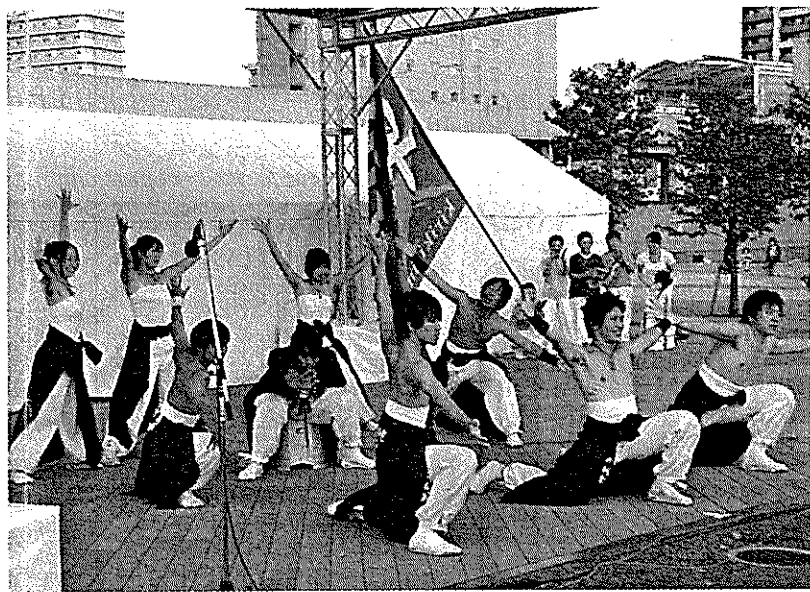
「ソーランで観客圧倒したい」

きりきりまい 筑波大の学生団体「斬桐舞」

仏での交流イベント出演へ

筑波大の学生団体でよさこいソーランなどを踊る「斬桐舞（きりきりまい）」は11月7～8日、フランスで開催される日仏の交流イベント「SAMURAI JAPON 2009」日本の心・日本の文化フェスティバル」に参加する。代表の守谷俊甫さん（23）は「結成から1年もたっていないのに、さまざまなイベントに呼んでもらえる団体になってうれしい」と、出場を機に、さらなる飛躍を誓っている。

（増尾祐香）



ユニバーサルソーランを踊る斬桐舞。つくば市葛城根崎

斬桐舞は2008年10月の同大学祭で北海道出身の学生らが集まってソーラン節を演舞したのがきっかけとなつて、10月15日に発足。理念には「障害の有無、老若男女、国籍、運動の得意不得意に関わらずみんなが楽しく笑顔で踊ろう！」を掲げ、ユニバーサルソーランという新しい分野を作り出した。現在は同大学生のほか、主婦や子ども、社会人など約30人が参加している。

メンバーで全盲の大平啓朗さん（30）も一緒に踊れるよう「綱引き」や「櫓（こし）をこぐ」など動作に名前を付けて声に出しながら踊る、座ったまま踊るなど、練習方法も工夫している。

国際生物学五輪で、外国人高校生らとの一斉演舞や、全国障害者問題研究会で障害児中心のソーランチームと共演するなどの実績を持つ。演舞を見た人から声がかかることが多く、これまで30近いイベントや祭りに出演しているという。

斬桐舞は9人で渡仏し、2日間で2公演を行うという。

フランスでの公演に向け、代表の守谷さんは「自分たちのコンセプトは間違っていないかった。フランスでは漁師らしい激しさや熱気、若さで観客を圧倒させ

たい。一緒に踊ってもらいたい。

斬桐舞では、念に共感し、やるパートナー。問い合わせ（電話080・9558）ま